

# 伊勢・三河湾貧酸素情報 (H28-19号)

平成28年10月21日  
愛知県水産試験場 漁場環境研究部

平成28年10月18、19日に伊勢・三河湾において貧酸素水塊の調査を実施しましたが、その結果は以下のとおりです。

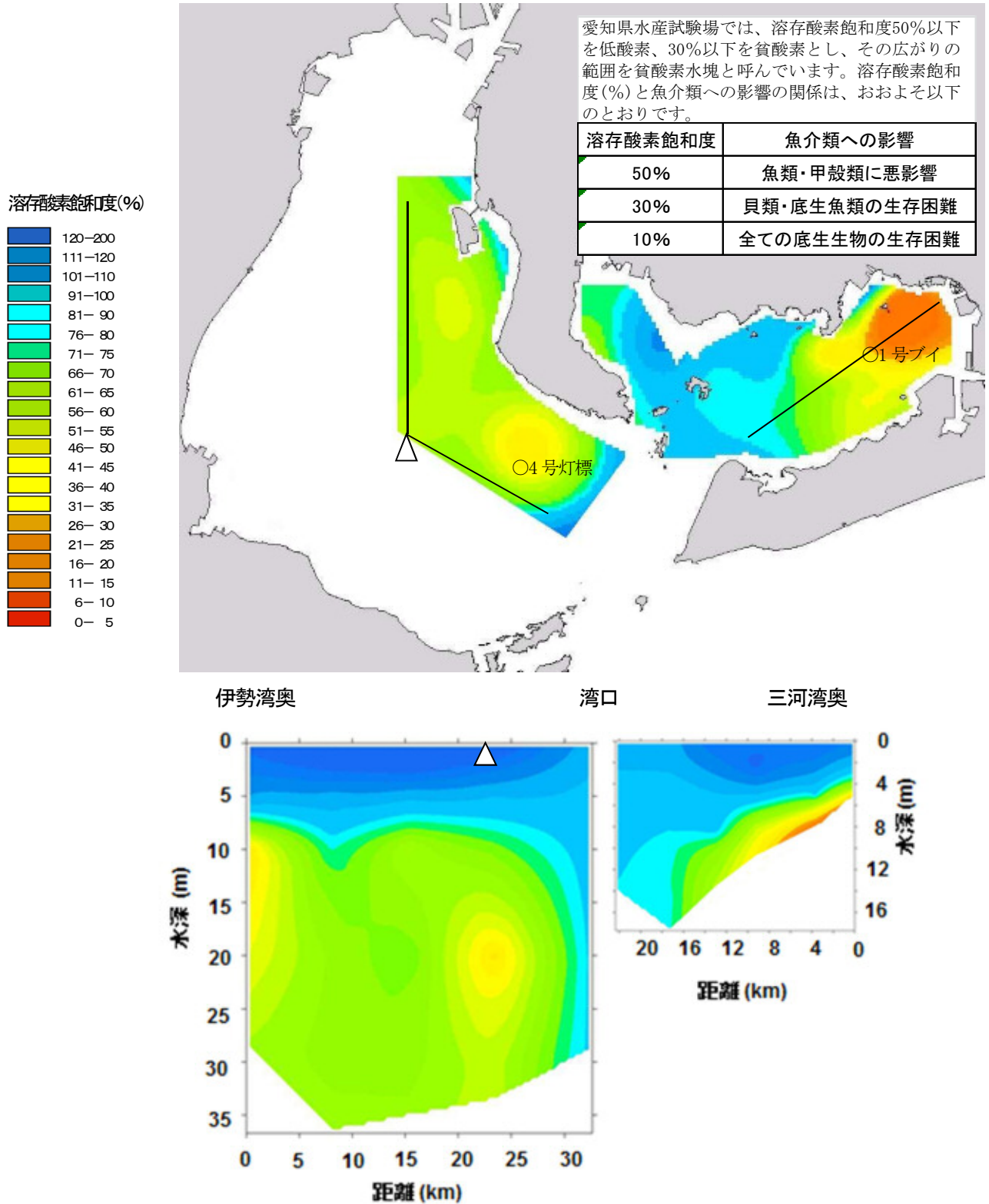


図1 伊勢湾 (10月19日)、三河湾 (10月18、19日) 底層の溶存酸素飽和度の分布 (上図) 及び上図直線部分の鉛直分布 (下図) (愛知県「へいわ」調査)

### 伊勢湾

10月19日の調査結果を図1、表1に示しました。前回調査（10月7日）では広い範囲で貧酸素水塊が確認されましたが、外海水の底層への進入により底層水が持ち上げられたことに加えて、表底層の密度差が小さく上下混合が進んだため、今回の調査では貧酸素水塊は解消していました（図1）。

国交省中部地方整備局が所管している伊勢湾の水質モニタリングシステムの第4号灯標（内海沖）のデータをもとに、10月13、16、17日に中層で貧酸素水塊が観測されています。その後、底層でも貧酸素水塊は観測されましたが、徐々に解消しています（図2）。

今後は、表底層の密度差が小さく上下混合しやすい状況であるため、大規模な貧酸素水塊の発達はないと考えられます。

表1 調査時の水温、塩分

	水温(°C)		塩分	
表層	22.7	~ 24.4	23.9	~ 31.6
底層	22.1	~ 23.0	30.5	~ 33.8

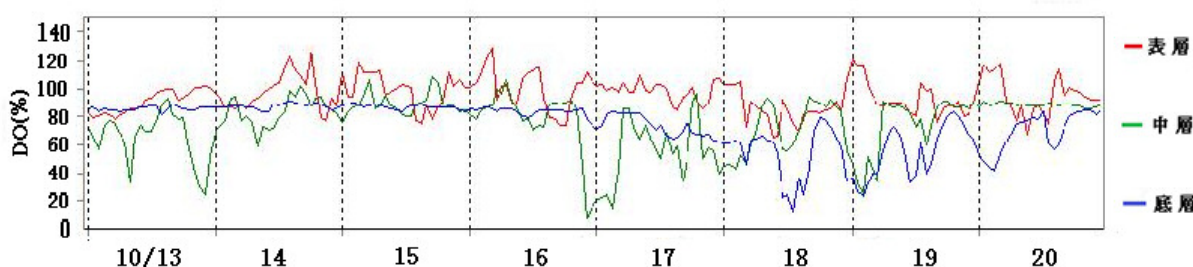


図2 伊勢湾モニタリングシステムの第4号灯標の溶存酸素飽和度の経時変化（中部地方整備局HPより）

### 三河湾

10月18、19日の調査結果を図1、表2に示しました。前回調査（10月3、4日）に比べて貧酸素水塊の規模は縮小しており、貧酸素水塊の層の厚さも薄くなっていました（図1）。

自動観測ブイ1号（蒲郡沖）のデータを見ると、10月16、17日に観測された貧酸素水塊は、10月17日の強風により海水の混合が進んだため一時的に解消しました（図3）。

今後は、表底層の密度差が小さく、上下混合しやすい状況であるため、貧酸素水塊の規模は縮小傾向になると考えられます。

表2 調査時の水温・塩分

	水温(°C)		塩分	
表層	21.8	~ 23.2	22.0	~ 30.4
底層	21.8	~ 23.0	29.5	~ 31.9

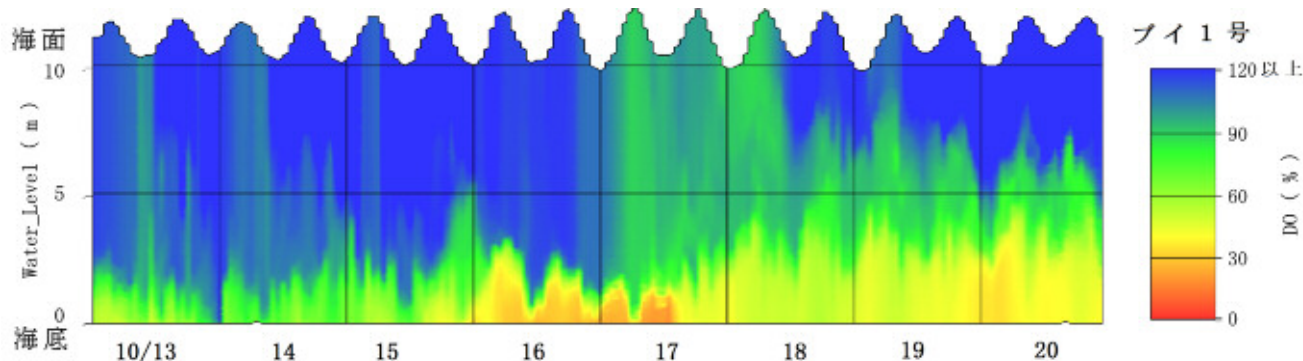


図3 溶存酸素飽和度 (DO) の経時変化（自動観測ブイ1号）

## 参 考

前回調査時の底層の溶存酸素状況

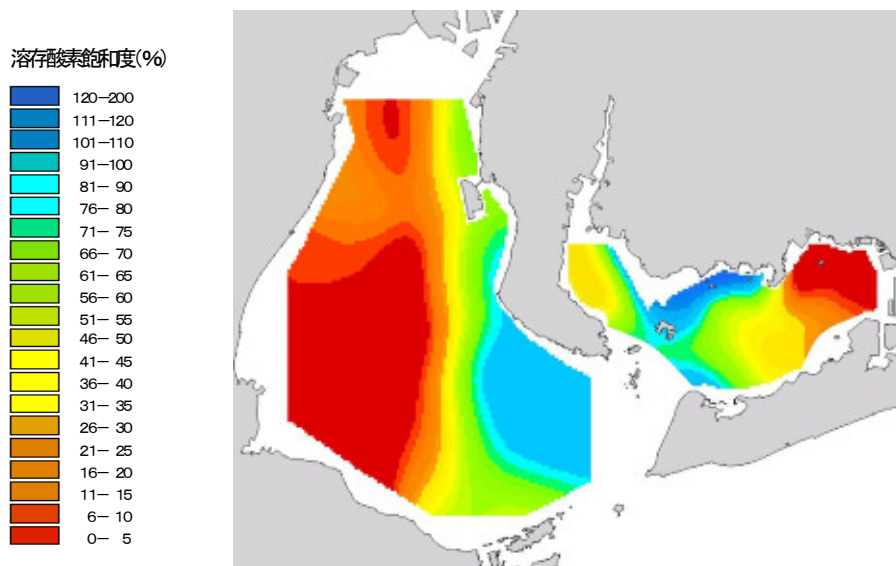


図4 平成28年10月7日（伊勢湾）、10月3、4日（三河湾）